

明美 せーの、
明美 じゃーん、大吟釀ー！

まあまあ長い間。

明美 なんか、私とヨウコつて、こういうとこあつたよね、
明美 そうだっけ?
陽子 「かぶる」んだよ。
明美 ああ、
陽子 ……ヨウコ、昨日の夜、何食べた?
明美 カレー。
陽子 私もカレー。
明美 うわっ。
陽子 おとといは?
明美 (少し考えて思い出す) かつ丼。
陽子 かつ丼。
明美 陽子・明美 うわー。
陽子 明美 三日前は。
明美 (思い出そうとして) もう覚えてない。
陽子 明美 私も覚えてない。
陽子・明美 うわー。
明美 高校んときからそう、なにかと「かぶる」んだよ
私たち。
陽子 そう?

明美 その次の正月だつて、初詣でヨウコと会つちやつたし、
陽子 あー、
明美 修学旅行んときみんな私服じやん? そんとき全
く同じ服着てて。ペアルックみたいになつちやつてさ、
陽子 あー、言われてみればあつたかも。
明美 それからしばらく、私たち付き合つてんじやない
かつていう噂流れたからね。
陽子 マジで?
明美 高校卒業した直後も、何度も会つたことあつたし、
陽子 そだっけ、
明美 そだよ、あんた一回デート中に会つて気まずか
つたんだからね、
陽子 なことあつたっけ?
明美 せつかくいい雰囲気だつたのにぶち壊してくれや
がつてさ。あのあと別れることになつたんだかんね。
陽子 うわー覚えてない、
明美 私は死ぬまで忘れない。
陽子 まあ、くされ縁みたいなもんだよね。
明美 まあな、
陽子 でも、8年経つて結局またこうやつて出会つてる

わけだし、なにかと縁があるんだな私とアケミは。

明美 私は嫌だけどね。

陽子 今は？ 彼氏とかいるの？

明美 ふつふつふつふつふ。

陽子 え、なに「ふつふつふつふ」って。リアルで言つ

明美 てる奴初めて見た。

明美 そろそろ結婚するのです。

陽子 えつ？ アケミが？

明美 三年付き合つての彼氏と。

陽子 マジか、いいなー。え、どんな人なの？ なんて

明美 名前？ 歳は？ 仕事は？ かつこいい？

陽子 いつぺんに聞くなよ。

明美 じゃあ名前名前。

陽子 なんだよ教えるよ。

明美 恥ずかしいよ。

陽子 なんだよ気持ちわりいな。じゃあなんて呼んでん

明美 の？ その人のことなんて呼んでんの？

陽子 （恥ずかしそうに）とつづあん。

明美 ……なんか、錢形のとつづあんみたい。

陽子 名前に「と」入つてんの。

明美 へー、「トオル」とか「トシオ」とかってこと？

陽子 まあまあ、

明美 かつこいい？

明美 （照れて）……かつこいい。

陽子 うわあマジかマジかあ！（真剣に）あんた絶対騙さ

明美 れてるよ……。

明美 なんでだよ、

陽子 そんないい男、アケミと付き合わないよ。

明美 失礼でしょ。

明美 目え覚ませよ。

陽子 私にもそんくらいの男できんの。

明美 えーマジかマジか、写真は写真？

明美 ない。

陽子 ないの？

明美 写真撮られんの嫌がんだよ。

陽子 あーいるよねそういう男。私の彼氏もそうなんだ

明美 よ。（かなり驚いて）彼氏いんの？

陽子 まあねー。

明美 えどんな人どんな人？ なんて名前？ 歳は？

陽子 かつこいい？

明美 いつぺんに聞くかないで。

陽子 じゃあ名前名前、

明美 ええ？

陽子 あんたも恥ずかしいんじやん、いいよいよ、な

明美 んて呼んでんの？

陽子 （恥ずかしそうに）あつちやん。

明美 なに恥ずかしがってんだよ。え、なんの仕事して

んの？

陽子 いやいやそんな大した……、

明美 いいからいいから、

陽子 まあ、

明美 うん、

陽子 パチプロ？

明美 ……、

陽子 トータルマイナスらしいけど。

明美 ……あー……なるほどねえ……、

陽子 陽子

間。

明美 それにしても懐かしいね、高校時代。

陽子 早く会いたいなあユウ君、

明美 私、ときどき会うんだけどさ、ユウ君変わつてな

いよ。あのかっこかわいいまんま。あれに大人っぽさ

がプラスされた感じ？

陽子 最強じやねえかよ！

明美 そうなのそうなの。そろそろ来てもいい時間んな

んけど、

陽子 ……今だから言うけどさ。

明美 なに？

陽子 私、実はユウ君と付き合つてたんだよね。

明美 ……は？

陽子 意外でしょ？ 実は付き合つてたんだよね、高校

明美 んとき。

陽子 いやいや、え？ マジで言つてんの？

明美 マジマジ。びっくりしたでしょ？

陽子 いやいや、ないない絶対ない。何言つてんのお前、

明美 バカじやねーの、失せろカスが。

陽子 否定しすぎだろお前。最後失せろカスつて言つた

陽子 よ。

明美 だつてあんたクラスの超絶人気者のユウ君よ。ヨウコと付き合うなんてあるわけないじやん。

陽子 いやいやホントホント。

明美 ……えいつ？ いつ付き合つてたの？

陽子 高3の夏休み明けから卒業までだよ。

明美 ないない。

陽子 なんで、私が付き合つてたつて言つてんじやん。

明美 ありえないね。高2の冬から私と付き合つてたん

だから。

陽子 ……は？ ……いやいや、え？ いつまで？

明美 卒業まで。

陽子 いやいやありえないありえない、ユウ君卒業まで

明美 私と付き合つてたから。

陽子 え？

明美、落ち込む。

明美 ウソ……。

明美 陽子 (氣づく) うわ、

明美 陽子 なんだよ?

明美 陽子 またヨウコとかぶった?

明美 陽子 うわ、かぶった、

明美 陽子 こんなとここまでかぶせてくんないよ……。

陽子 私だつてかぶりたくないよ……
少し間。

陽子 ……これからユウ君来んだよね?

明美 ……おお、

陽子 ちょっとと問い合わせない……?

明美 え、どうすんの、だつて、本当に二股だつたら。

陽子 知らないよ、怒ればいんだよ、「こらーつ!」(なん

か上手く怒れていないので違う起こり方)「こらーつ!」つ
て。

明美 怒り方変だよ。

陽子 知らないけど、謝つてもらうしかないじやん。
明美 だよな、やつぱそุดだよな。

陽子、大声で何度も「こらーつ!」の練習。

明美も「こらーつ!」の見本を見せようとするが、やはり変な
感じになつてしまふ。

チャイムの音。

陽子 え、ユウ君じやない?

明美 ……ちょっと行つてくるわ、

陽子 おう、最初はなにげなくね、なにげなく、「お、お
う、ユウ君どうしたの?」みたいな、

明美 なんで偶然なんだよ、来ることなんつてんじやん、
中村 なんでもいいから、ね、なにげなく。

明美、去る。

陽子 くそ、どうしよう……、「こらーつ!」、「こらーつ!」

陽子 らーつ!」

明美、素早く戻つてきて陽子の口を塞ぐ。

明美 静かに。

陽子 ……な、なに。ユウ君は?
明美 ユウ君じやなかつた。

陽子 は？ じゃあ誰？
明美 隣の人。うるさいって。
陽子 あ……、
陽子 間。
陽子 ……ん、ちょっと待て。アケミ、付き合い始めた
明美 のいつって言つた？
陽子 ……ん、ちょっと待て。アケミ、付き合い始めた
明美 え？ 高2の冬だけど。
陽子 高3の夏休み明けから会つてた？
明美 いや、受験勉強忙しかつたし。
陽子 ……アケミさあ、……実は別れてたんじやない？
明美 は？
陽子 アケミと別れて私と付き合つたんじやないの？
明美 ……はあ？ 別れてないし。
陽子 アケミの中ではそうかもしけないけど、ユウ君の
明美 中ではもう別れてたんだよ。
陽子 いざれにしてもだよ、高3の夏休み明けに私と付
明美 き合つてることはある、アケミはその時点で飽きら
れてもたつてことじやないの？
明美 ……ええ？
陽子 まあユウ君も、アケミより私の方がいひつて気づ
いたんだろうね。

明美 それはない、絶対にありえない。
陽子 アケミより私のほうがいい女だし。
明美 ありえねえし。私のほうがいい女だし。
陽子 バカじやない？
明美 バカじやないし、私のほうがカワイイし頭いいし。
陽子 それがありえないんだって。どうせイケメン彼氏
明美 とか見榮張つてるけど大したことないんでしょ？
陽子 はあ？ 大したことあるし。カッコイイし！
中村 はあ？ じやあちょっと特徴言つてみなよ、似顔
明美 絵作つてやるから。
陽子 ヨウコ絵下手じやん。
明美 ろ、顔どんな形？
陽子 あんだよそういうアブリが。（スマホを操作する）ほ
明美 ら、顔どんな形？
陽子 どんな形？
明美 形とか言われても。
陽子 選べよこつから。
明美 ……これ。
陽子 目は？
明美 これかな。
陽子 おう、鼻は？
明美 しゅつとしてる。
陽子 口びるは？

て言つてたよね。名前、「トオル」とか「トシオ」とか
でしょ？

明美 薄めかな。
陽子 おう、髪は？
明美 ツーブロツク。

明美 ……なんか私の彼氏と似てんな。

明美 ……なんか私の彼氏と似てんな。
陽子 え、あのさあ、口元にホクロない？

明美 ううん、アキト。
陽子 ……うわうわうわうわ、
明美 え、だつてヨウコあつちやんつて、あ……、
陽子 アキトだよ、私の彼氏もあきと、
明美 いやいやいや、
陽子 マジ、私こんなとこまでかぶりたくないよ、
明美 苗字違うでしょ苗字、
陽子 待つて待つて、……よし、じやあせーので言おう、
明美 せーので、
陽子 せーの、
明美 待つて待つて、まだ準備できてない、
陽子 準備もなにもないじやん、
明美 心の準備でしょ、
陽子 知らないよ、せーの、
明美 待つて待つて、落ち着こう、
陽子 落ち着いてらんないよ、
明美 やめよ、知らなきやいいこともある、
陽子 明美 まだ同一人物かどうかわからんじやん、とつ
明美 あんはそんな、二股するような男じやないよ、
陽子 陽子 本當やめよう、
明美 やだ、せーので言えよ、
陽子 勘弁して……、

明美 いくよ、言えよ、絶対言えよ、
陽子 ……わかつたよお、

明美 セーの、
明美・陽子 サイトウ。あーーっ！！

間。

明美 ……は？ え？ どういうこと？ え？ だつて
私結婚すんだよ？

陽子 知らねーよ……、

明美 いやいやありえないって、とつつかんはそんなや
つじやないって、

陽子 そうだよ、あつちやんだってそんなやつじやない
よ、

明美 こんなとこまでかぶせてくんないよ……、

陽子 私だつてやだよこんなの……、

少し間。

陽子 どうすんだよ。

明美 どうするつたつて、別れるしかないでしょ、
陽子 だよね……。

明美 ……くそ、悲しいの通り越してムカついてきた。
陽子 私も。

明美 ちよつととつあんに電話するわ。
明美 ああ。
陽子 おう、途中で私にも代わってくれよ。
明美 ああ。
明美、電話をかける。

明美 ……もしもし、とつあん？ ……うん、あんた
にききたいことあんだけど。……あんた二股してるよ
ね？ ……「え？」 ジやなくて、ヨウコと二股してる
よね？ ……こつちは証拠があがつてんだよ。騙しや
がつてさあ。クソがよ！ ヨウコに代わるわ。
陽子 あつちやんさあ、マジがつかりだわ。二度を顔見
せんか力スが。あん？ 誰じやねえよ橋田陽子だよ。
びつくりした？ まさか私がアケミと知り合いなんて
思わないもんね？ ……あん？ うるせえよ、失せろ、
バー！（明美に電話を渡す）
明美 お前との結婚なんかこつちから願い下げだから
な！ 二度とそのツラ見せんじやねえぞ！（電話を切る）

ひどく落ち込んでいる二人。

陽子 どうすんだよ。
明美 どうするつたつて、別れるしかないでしょ、
陽子 だよね……。
明美 ……くそ、悲しいの通り越してムカついてきた。
陽子 私も。

陽子 くそつ……別人だつた……、

かなり長い間。

明美 ……うん?

陽子 私の彼氏じやなかつた、

間。

陽子 私の彼氏あんな声とか喋り方じやないわ。全然違う。

間。

陽子 え、あつとつてどんな字?

明美 重篤の「とく」に北斗の「と」。

陽子 あ、私の彼氏、「あつい」に「ひと」。

少し間。

明美 てめ、

明美、陽子を殺しにかかる。
陽子、必死の抵抗。

そこに電話の着信音。

明美 とつつかんからだ!

明美、電話に出る。

明美 もしもしとつあん? ごめんごめんごめん、別違う、さつきの違う、全然ほんと違う、ね? うん、別れない、違うんだよ、とつつかん、とつつかーん!

電話は切れる。

陽子 なんだつて?

明美 もう一度と会わないと

陽子 だらうね。

明美 殺す、

明美、殺しにかかる。

陽子、必死に抵抗して距離を取る。

明美、また殺しにかかる。

陽子、必死に抵抗して距離を取る。
明美、いったん奥へ行き、包丁を持ってくる。

明美 マジで殺す。

陽子 タイムタイムタイム、落ち着こ、落ち着こ。
明美 落ち着いてるよ。

チャイムの音。

明美 うつせえ！ 殺すぞ！
陽子 ユウ君じゃないの？

明美 そうだ、あいつも問い合わせなきやいけないんだ。
陽子 待つて待つて。

玄関へ去る。

明美の声 ユウ君さあ、お前高校んときハシダヨウコと
付き合つてたらしいじやん？ ええ？ 二股だらうが
二股。おい、知らねえじやねえんだよ！ 本当のこと
言うまで、この家入れねえからな！ 入つてきたら刺
し殺すからな！ わかつたな！

明美、戻つてくる。

陽子 アケミ恐いよ。

明美 うつせえ、ユウ君に裏切られて、とつあんにも
振られて、全部てめえのせいだからな。ヨウコを殺し
て私も死ぬ。

陽子 落ち着けつて。

明美 ついでにユウ君も殺す。

明美 ユウ君は関係ないじやん。

明美 あいつは私を裏切つたんだよ。

明美 待つてつて、ユウタ君は巻き込まないで。

少し間。

明美 ユウタ君？

陽子 なに。

明美 誰ユウタ君つて？

陽子 堂本ユウタくん、同級生だつた
明美 は？

陽子 え？

明美 ユウキ翔平くんでしょ。

陽子 誰？

明美 え？

やや間。

陽子 え、あの、明美だよね？

明美 明美だよ。

陽子 だよね？ 工藤明美だよね？

明美 え?
陽子 え?
明美 中田明美ですけど。
陽子 …。
明美 え、ハシダヨウコだよね。
陽子 うん、橋田陽子。
明美 洋服の「よう」に子供の「」でヨウコだよね?
陽子 え?
明美 え?
陽子 太陽の「よう」…。
明美 え、西高だよね?
陽子 東高。

間。

なんか、かなり気まずい二人。

照明が落ちていく。

明美はとりあえず突きつけている包丁をおろす。

二人とも、「あ、あ」などと言いながら、会釈。

二人はどうしていいかわからず気まずいまま、ゆっくりと照明が落ちていく。

作・小佐部明広

幕